

目指す学校像	知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童を育成する学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 個に応じた指導の充実と学習習慣の定着 2 安全安心な学校づくり 3 地域や保護者とともに歩む学校づくり 4 教職員の授業力向上・専門性向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標		年 度 評 価			年 度 評 価		実施日令和6年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状と課題) ○令和4年度の学校評価の保護者アンケート「家庭で進んで学習(宿題など)している。」の設問で、「そう思う」「大体そう思う」の割合が75.9%で、「あまりそう思わない」が22.0%、「そう思わない」が2.1%となり、家庭学習を定着させることが課題である。 ○家庭学習の取り組み方や基本的生活習慣などについて、家庭と連携して、基本的なことをしっかりと身に付けさせていきたい。 ○学校評価の児童アンケート「先生の授業は分かりやすい」の設問で、「そう思う」「大体そう思う」の割合が94.9%で、「あまりそう思わない」が4.4%、「そう思わない」が0.7%であった。誰一人取り残さず、全ての児童が「分かった」「できた」の学び喜びを味わえるように、個に応じた指導・支援の方法をさらに工夫する必要がある。	・個に応じた指導の充実と学習習慣の定着 ・生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実	・「家庭学習の手引き」を作成・活用し、家庭と学校で連携・協力して家庭学習の方法を工夫し、学習習慣の定着を図る。 ・新たに「学習支援教室」を設置し、基礎的な学習が定着していない児童を対象に個別指導を行う体制を確立する。 ・授業でタブレットを活用して、個に応じた指導をする。	・学校評価の保護者アンケートの家庭学習の項目で90%以上の肯定評価を得られたか。 ・学校評価の児童アンケート「先生の授業は分かりやすい」の設問で、「そう思わない」「あまりそう思わない」が3%以下となるようにできたか。	・家庭学習の取組のポイントや学習の内容の例を示した「家庭学習の手引き」を作成し、家庭に配付した。保護者に家庭学習の様子を見てもらい、子どもの学習理解の現状を家庭と学校で共有して、学習習慣の定着につながるよう取り組んだ。学校評価の保護者アンケートの家庭学習の項目では肯定評価が75%だった。 ・学校評価の児童アンケート「先生の授業は分かりやすい」の設問で「そう思わない」「あまりそう思わない」は5%だった。	B	・「家庭学習の手引き」を継続して活用するとともに、より効果的な家庭学習の取組を検討し、学習習慣の定着を目指していく。 ・学習支援教室として次年度から「sola(ソラ)る一む」を開設し、校内における多様な学びの場や居場所として、児童が安心して生活できる学習環境を整備していく。 ・全ての児童にわかりやすい指導・支援の方法をさらに工夫する。	・家庭学習の取組について、学校と家庭とでもっと話し合いの機会をもち、学校と家庭で考えのすり合わせを行い、保護者と連携して、一緒に取り組んでいくべきと思う。 ・児童の家庭学習の取組を保護者がタブレット等で確認できるようなシステムがあるとよい。 ・学習面、生活態度など、家庭でのしつけが大事である。家庭と連携して、早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的なことをしっかりと身に付けさせていくとよい。 ・児童会の代表児童が、学校をよくする活動についてさまざまな取組をがんばっていてよいと思う。
2	(現状と課題) ○全児童数の約6%が食物アレルギーをもっており、給食対応に十分配慮する必要がある。 ○児童の健康状態や配慮事項を十分に把握し、家庭と連携して、安全安心な学校づくりを行う。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が原因となる児童のけがは発生していない。 ○定期的に安全点検を行い、施設・設備の充実を図る。 ○学校事務と連携して、適切な予算の執行や備品・教材等の管理をする。	・危機管理対応 ・施設・設備・予算執行	・該当児童の保護者と食物アレルギー面談を実施して、個別に対応方法を確認する。 ・管理職・栄養士・養護教諭・担任・学年で連携して、チェックシートを活用して複数で確認を行う。 ・事故発生時の緊急対応体制を整える。	・保護者と面談を実施して確認し、教職員が連携・協力して複数で食物アレルギー対応を行い、食物アレルギーに係る事故を防止できたか。 ・児童が安心して給食を楽しみ、安全に学校生活を送ることができたか。	・食物アレルギー対応の児童の保護者と面談を実施し対応について厳正に確認した。 ・栄養士・担任・学年の担当と連携して、毎日朝と給食前に複数で食物アレルギー対応チェックを確実にし、事故なく実施できた。	A	・食物アレルギー対応とあわせて、災害など起こりうることへの事前の準備と、事故を未然に防ぐためのリスク管理を含めた危機管理を徹底し、組織的な対応で児童の安全確保に努める。	・児童の登下校の安全確保には保護者の理解と協力が不可欠。今後も保護者と連携して行うとよい。 ・子どもたちの通学班登校の様子について、右側通行や整列歩行などさらに改善が必要。徹底していくとよい。 ・食物アレルギー対応について引き続き事故なく安全に実施してほしい。
3	(現状と課題) ○昨年度に学校運営協議会を立ち上げ、本校のよさや魅力、課題点について熟議した。今年度は目指す児童像の実現に向けて熟議を行い、協働活動の実施につなげていく。 ○学校運営協議会を中心にして、地域や保護者とともに歩む学校づくりを推進する。 ○昨年度までは新型コロナウイルス感染防止対策徹底のため、学校行事や地域の行事が中止または制限付きで実施されていた。 ○今年度はポストコロナにおける、学校行事のあり方の見直しを行い、学校の教育活動について保護者や地域の理解が深まるようにする。 ○児童がPTAや地域の行事に参加して楽しんでいる。	・コミュニティ・スクールの実施 ・PTAや育成会等の地域との連携	・学校運営協議会を計画的に開催し、学校の魅力や課題を共有し、よいところをさらに伸ばし、課題を改善できるように協働活動を行っていく。 ・地域でどのようにして子どもたちを育てていくかについて熟議を行う。 ・地域の教育人材を活用した児童の学習活動や教職員研修会を実施する。	・学校運営協議会を年3回開催し、「地域でどのようにして子どもたちを育てていくか」について熟議を行うことができたか。 ・学校、地域、保護者で熟議した内容に基づいた協働活動を行うことができたか。	・年3回学校運営協議会を開催し、学校や子どもたちの様子について、よいところや課題点について共有した。 ・総合的な学習の時間、生活科等で、地域の教育人材を活用した学習を実施した。 ・校内研修会で、地域の方に学校と地域の関わりについての講話を依頼した。	B	・学校運営協議会において熟議をさらに活発に行い、学校運営や教育活動の継続的な改善につなげる。 ・学校、家庭、地域、それぞれの立場からの働きかけをして、児童の挨拶力のさらなる向上をはじめとしたさまざまな活動で協働していく。	・しっかりとあいさつできる児童もいるが、そうでない児童もいる。引き続き学校・保護者・地域であいさつがしっかりとできるように見守っていきましょう。 ・あいさつ運動を校内だけでなく、校外へ広げるのもいいのではないかと、「あいさつ通り」をつくって、地域全体であいさつが盛り上がるとうれしい。 ・コミュニティ・スクールは、1校だけでなく関連する中学校区の小・中学校で連携・協力して取り組んだ方が効果的であると思う。
4	(現状と課題) ○シン・GIGA スクール構想で教育DXの実現が求められている。 ○ICTを活用した学びの日常化に向けて、授業改善に取り組んでいる。 ○情報端末の活用に関する教職員研修の充実と授業力の向上に取り組む。 ○教員免許更新制に代わる新たな研修制度として教員自らの学びの方向性を定め、様々な研修を主体的に選択して受講し、資質向上を目指す。	・教職員研修の充実	・全教員がPC端末を使った公開授業を行い、授業力の向上を図る。 ・教職員が校内研修の講師を経験し、専門性のさらなる向上を図る。 ・PC端末活用の校内研修を行ってスキルアップを図り、授業で積極的にタブレットを活用する。 ・校長との面談で受講奨励を実施するとともに、教員自らの資質向上に向けた様々な研修を主体的に受講する。	・全教員がPC端末を使った公開授業を行うことができたか。 ・教職員が校内研修の講師を経験できたか。 ・教職員が資質向上に向けた様々な研修を主体的に受講できたか。	・算数、国語を中心に、全教員がPC端末を活用した研究授業・公開授業を行い、指導方法の工夫・改善を行った。 ・全教職員が得意分野を生かして校内研修の講師を行った。講義を行うに当たり、各自がさらなる専門性向上を目的に主体的に研修を受講し、資質向上につながった。	B	・タブレット等のICTを効果的に活用した学習者主体の授業づくりに取り組む。 ・教員自らの学びの方向性を定め、資質向上に向けた様々な研修を主体的に選択して受講できるようにする。 ・教職員の同僚性が高まり、良好な職場環境にすることで、児童にも余裕をもって接することができるようにする。	・先生方が熱心に授業をして、児童が集中して学習に取り組んでいる。 ・どの学級も、教室掲示がきれいにできていてよい。 ・全ての教職員が得意分野を生かして校内研修の先生を行ったのはお互いが学び合えてよい取組である。